

ウータン

〈HUTAN〉
森の通信

一部 200円
年会費 2,000円
郵便振替 大阪3-3880

SAVE OUR TROPICAL FORESTS

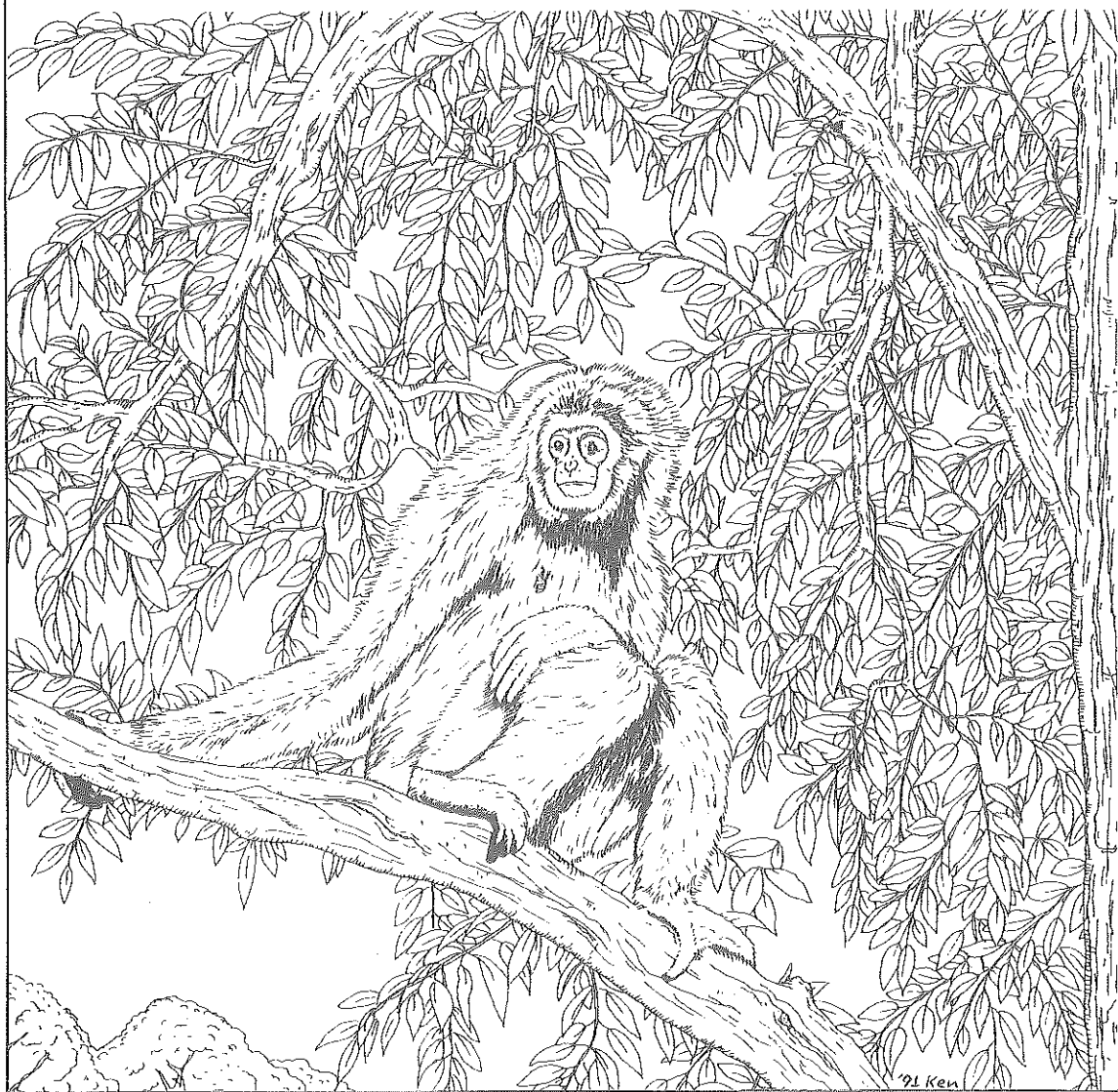
森と生活を考える会

〒530/大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館#308
Tel. 06372-1561「自然を返せ/関西市民連合」事務所気付

第 20 号

●1991年6月4日 発行

- サラワク女性初来日・全国縦断キャンペーン!
- 第1回 全国熱帯林保護会議行われる!



White-handed gibbon

everybody 毎度 on The 熱帯林!

STAFF 号変更の目録
なごも

東村岳史

大阪の中心部近くに移り住んで約五ヶ月になる。淀んだ瀬川の脇を通り、建築中のマンションを見かけるにつれ、緑の少ない生活環境に嫌気がさしてきた。生まれ育った北海道とは比べるべくもないが、もう少しましな街作りはできなかったものかと文句の一つぐらいい言いたくなる。

そういうところで暮らしているせいかどうかかわらないが、自分の周囲の動物への関心がめっきり薄くなっていくことに気付く。昨年ケニアへ行ったときのこと、電気も水道もない家に一週間ホームステイする機会があった。家人は私を連れ回しては、この木は何の木でこの草はどういう用途があって、とひとつひとつ説明してくれた。さて、「こんなのは日本にあるか」と問われたとき、はたと考えてしまった。熱帯の植性はもちろん日本と違うから、見慣れないものももちろんたくさんある。しかしどう違うのか、どんな木が日本に生えているのかきちんと説明できそうにない。引越したのとほぼ時を同じくしてウータンに顔を出すようになったが、実際に活動していないということに加えて自分の無知を思うとなんとはなしに頭を掻きたい心境になってくる。とはいえ生来の怠け癖がそう簡単に変わるわけもなく、まあぼちぼちという感じだ。ミーティングに足を運ぶ。そのうちいつか動き出す時が来るんだろうな。(東)

◆ウータン・主な活動報告◆

- 4. 19 大阪府、大阪市と《熱帯木材不使用》にむけて交渉。大阪府は「コンパネ使用調査する。」と言うが、市は誠意なし。
- 4. 21 「アースディ・フリンナップ・ハイク」奈良熱帯林保護ネットワークと。
- 4. 27 「マレーシアの叫びを聞こう！」集會に参加・協力。
- 4. 28 「サラワク署名」始める、京都で。
- 4. 29 「サラワク署名」大阪・服部緑地で。
- 5. 13 J E E と「サラワク・森の女たちの証言」六ノ六集會の打合せ。
- 5. 14 第一次署名集約で六二一名分集まる。
- 5. 18 / 19 第一回全国熱帯林保護會議に参加。
- 5. 24 熱帯林アンケートを府知事、大阪府下の首長、府議、大阪市議に発送。
- 5. 25 議員とコンタクト始める。

第20号 もぐり

HUTAN

- ウータン活動報告 2
- スタッフから一言 2
- ウータン今後の予定 3
- 第一回・全国熱帯林保護會議 4
(5.18.19) 報告
- ウータン・ニュース 6
- サラワク女性初采日紹介 8
- 第3回自治体交渉報告 9
- 初めて署名集約 For Me 10
- ブスメラ村から水保へ 11
- 世界の森から 12
- 熱帯林のアホ山を救済す地熱発電計画 12
- 「サヨクナシン」最終回④ 14
- ウータンに届いたお便り 18
- NETWORKS 紹介 19
- J E E ー日本環境保護国際交流會 19
- インフォメーション 19
- スケジュール(6.7.7月) 20
- 後記・お知らせ 20

*表紙は 東南アジアの高地の森林にすむ White-throated ibon です。

HUTAN 6/23

総会でウータンの今後を話し合おう！

事務局長・西畑良夫

私達、ウータン・森と生活を考える会は、八八年六月に発足してから三年経ちました。一年半は、アジア各地の報告会、学習会などを催し、九〇年三月に来阪したジョク・J・イボンさんと商社に「熱帯木材の輸入停止」を申し入れてから、六月に商社等に公開質問状を出しました。しかし、商社からの回答は全く答えにならず何ら対策すら持っていない有様だったので、私達・ウータンは身の廻りの問題なので、「自治体キャンペーン」始めようと決めました。九〇年一二月に大阪府、大阪市と交渉。九一年一月に第二回目の府交渉。始めは「熱帯木材の使用は公共工事で一割だけだ。使用を減らすとマレーシアが困るのでは」と府は言っていました。徐々にマレーシア・サラワクの状態について行政側も認識しはじめて四月一三日の話し合いでは大阪府は「コンパネの使用量、使用回数について調査していきたい。」と言っています。だが、欧米の自治体のように「熱帯木材不使用条例」を制定するにはまだ時間がかかると思われます。

九一年前半の取組みは「自治体キャンペーン」です。この一環として、私達は交渉・話し合い、署名活動、ハガキ発送行動、そして議員等へアプローチするために「熱帯林アンケート」を行いました。第一回「アンケート」の回答率が低かったものの、大半が熱帯林破壊を止めることに協力

的であるために、五月二四日に大阪府知事、大阪市長、府下の首長、全府議、大阪市議にアンケートを発送して、回答については今度の総会で発表する予定です。

このところウータンでは「自治体キャンペーン」が主でしたが、これだけでは熱帯林の破壊は止まりません。この間の事務局で話し合われたことは、「いかに多くの市民に知ってもらい、森の破壊を止めるための活動を共にする」かです。例として①スライド、ビデオを持って各地域へ出前講座、②リーフレットの作成、③新入者講座を月一度行う、などをして熱帯林問題をPRして、④いろんな人々と交流し、ネットワークを作る。

「自治体キャンペーン」は引き続き、①署名、②交渉、③ハガキを自治体に送る行動、④建築家などと学習会をする、⑤ネットワークを生かして地域で活動できる人と議員と学習会をする、などが九一年後半の取組みにしていきたいと思っています。ぜひ総会で話し合ひましょう。

・ヤフア77先住民展 (6/5-6) ・アンケート回収(6/11) ・総会(6/23)-アンケート発表 ・大阪府・市と交渉 ・月例会	6月	91年後半(予定)
・議員とコンタクト ・署名活動 ・ハガキ	7月	
・月例会(懇話会?) ・出前講座 ・新入者講座	8月	
・水2次 議員に ・署名集約 質問を!	9月	
・ヤフア77報告会 ・熱帯林問題(10/20-28) ・全府議アンケート(11/10) ・署名集約	10月 11月	

N·E·T·W·O·R·K

◆ 第一回熱帯林保護

◆ 全国連絡会議開催 ◆

【報告】 江村方孝(ウータン)

去る五月十八日、十九日の両日、東京 代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで、第一回熱帯林保護全国連絡会議が開かれた。これは、サラワクキャンペーン委員会(東京)が、熱帯木材不使用条例の制定をめざす自治体キャンペーンに関心を持つ全国の団体および個人に呼びかけて開かれたもので、十八日は一般公開のセミナー、翌十九日は自治体キャンペーンを中心にしたこれからの全国的な運動の進め方に関する会議が行われた。

十八日のセミナーには、市民グループのほか、建築家、弁護士、自治体、マスコミ、企業などの関係者合わせて五〇名あまりが参加した。

まず、岩崎駿介さん(日本国際ボランティアセンター代表)が、熱帯林の伐採を止めたあと、現地の人々がどのように発展していくかという問題を指摘した。続いて黒田洋一さん(日本熱帯林行動ネットワーク事務局長)が、最近の熱帯林問題の動向について説明した。

次に発言した「平和と環境を考える建築家」の林昭男さんの話は、最近特異な形の建築が要求されるようになってコンパネ(コンクリートパネルの略。コンクリートを固めるための型枠用合板。おもに南洋材使用)の使用量が増えているが、建築家はコンパネの環境に

与える影響についてあまり意識していない。全国にいる会員を通してそういう意識を改める努力をするとともに、建築家の専門的な知識をいかして自治体キャンペーンを応援していきたい。

(株)大林組 地球環境部長の酒井寛二さんは、企業の立場からコンパネ使用削減の取り組みについて話をしてくれた。大手 中堅の建設会社約八〇社が加盟している建築業協会では、各企業がそれぞれ独自に、いつまでにどれだけ減らせるかという具体的な行動計画を今年中に打ち出すことになった。大林組としては、いろいろと検討した結果、コストや施工方法の点から当面は複合合板(表面は南洋材、芯には針葉樹を使用。南洋材の使用量を三分の一に減らせる)を使用していく方針。長期的には木材のコンパネを使用しないように考えているが、当面は植林された針葉樹を使うことで環境への悪影響を少しでも減らしていきたいということだった。

自治体関係では東京都議員の三井マリコさんが、東京都の動きについて話してくれた。三井さんが、昨年十二月と今年二月の二回にわたり都議会で熱帯林保全について質問を行ったのがきっかけで東京都が動きだし、今年の秋までには具体的な方策を定める予定である。また、全国の自治体関係者が集まった「福祉を語る女性の集い全国大会」で採択された「熱帯林乱伐防止の決議」を提案した保谷市長も挨拶にたった。

構造設計をやっている建築家の増田一真さんは、現在取り組んでいる現場プレキャスト工法について説明してくれた。これは、現場でコンクリートの床、梁、柱をそれぞれ打ち上げ組立てていく方法。使用するコ

ンパネは最低限ですむし、耐用年数も長い。一般的な型枠工法は、水分を多量に加えるために耐用年数はせいぜい数十年。環境に悪影響を与え、しかも長持ちしないこのような工法がもてはやされるのは、手間がかからないのと、学者と役人の怠慢のためと増田さんは憤慨していた。

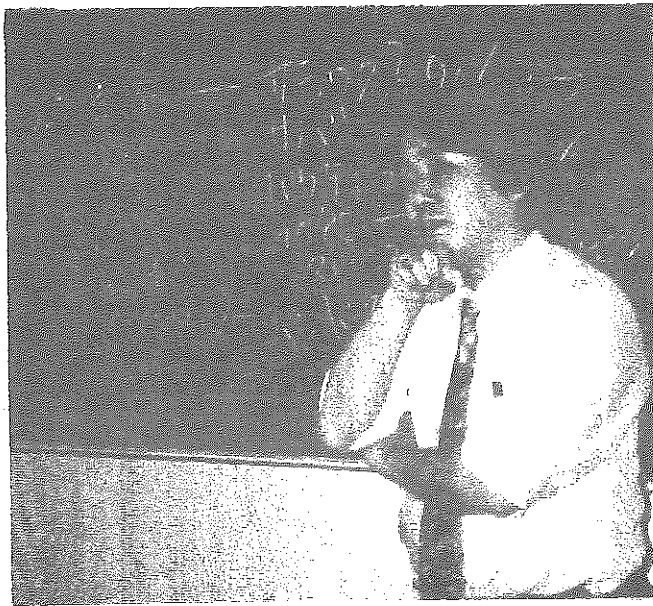
このあと東京都立大学院生の工藤直子さんがスライドを使ってコンパネの使用動向について説明。最後に弁護士千葉恒久さんが条例制定運動について話し、この日のセミナーは終了した。

翌日の会議に参加したのは、東京、神奈川、静岡、金沢、名古屋、奈良、大阪、岡山、松山、福岡などの市民グループと個人で約30人。ウータンからは、西岡、篠宮、浅野、辻村の4人が参加した。

まず、すでに自治体に対して働きかけを行っているウータンはじめ奈良、静岡、東京のグループが、経過を報告。その中では、東京江戸川区のグループKIKIが最も進んでいるようだ。この春の地方選挙に際して、区議員候補者にたいしてアンケートを実施。回収率六二%、うち八二%が熱帯木材不使用条例に賛成と解答している。対象地域が狭く、顔のわかる範囲で運動できるのが強みだろうか。しかし他のグループでは、縦割り行政の無責任体質に苦勞しているようだ。このあと、熱帯木材不使用条例の制定や使用削減に向けて、どのように自治体に働きかけていったらよいか、多数の市民が参加する魅力的な運動を作っていくためにはどうしたいかなどについて議論がかわされた。最終的に、今後のネットワークの方法、今年の秋に二回目の会議を開くことを決めて、第一回の全国会議は

終了した。

なかなか厳しいスケジュールで最後はみんな疲れきっていたが、熱帯林を守るために何か行動を起こそうと思っている市民が一同に集まった意義は大きい。また、市民グループ以外にも、建築家、弁護士、企業、自治体関係者など様々な人が、熱帯林を守るためにそれぞれの立場でできることをしようとしていることも改めて実感した。このネットワークをさらに広げて熱帯林の保全を実現するためには、ねばり強く続けることと、誰もが気軽に参加できる「歌って踊れる」市民運動をめざす必要があると思った。



● 5/18の会議で講演する黒田洋一氏（熱帯林行動ネットワーク）

HUTAN NEWS



「熱帯林問題は使い捨て文明にどっぷりと漬かった日本のおかしな現状を映し出す鏡です」

日本商社による東南アジアでの熱帯林大規模伐採による環境破壊を告発し続けて四年、世界各国で環境保護に取り組み草の根の活動家に贈られるゴールドマン環境賞を日本人として初めて受賞した。

「年間に世界で本州の九割近い面積の熱帯林が切り倒され、そのうち半分を日本が輸入。輸入の八割近くが建設現場でのコンクリート型枠に使われ、平均二・五回使用後、焼き捨てられる。都庁新庁舎建設では、最低でも千本以上の原木に相当する型枠が使われ捨てられるなど、こ

米国のゴールドマン環境賞を受けた



黒田洋一さん

のまのペースでは、あと三十年で地球から熱帯林が消滅する

東京教育大(現筑波大)農学部を中退後、生協活動に飛び込む。八五年に約十九日、東南アジアで農薬問題の実態調査

熱帯林保護の黒田さん受賞

ゴールドマン環境賞
【ロサンゼルス22日】高野和彦、米カリフォルニア州サンフランシスコで二十二日、環境保護に貢献した世界各地の七人に今年度のゴールドマン環境賞が贈られ、このうちアジア地区からは日本の熱帯林行動ネットワーク(本部・東京)事務局長の黒田洋一さんが受賞した。日本人の受賞は初めてのこと。

●彼は、この四年間寝食を忘れて走りつづけた努力の人です。 やや太り気味なのは食事時間の不規則が原因との分析あり。

私が医者なら一週間の安静を命ずる。黒田さん評

弁護士・大西裕子

「人相が悪くはっていませんが、怪訝な人です。」

日本熱帯林行動ネットワーク(JATAN)を組織し、事務局長に。

八九年には英語で「熱帯林破壊と日本の木材貿易」を著し、一躍、世界に知られた。

「しかし、商社は絶対に降参しない。最終需要での合板使用を削減せねば」と最近、公共工事での熱帯合板不使用条例の制定を自治体に強く求めている。

会員からの会費や世界自然保護基金などからの寄付で何とか組織を維持し、給料もわずか十五万円。仕事の海で抱かれそうなくほど忙しくて、まだ独身。東京都出身、三十七歳。

熱帯林再生へ実験着々

マレーシア 三菱商事と横国大教授

国内二百カ所に「ふるさとの森」を再生させた手法を採用して、横浜国立大学の宮脇昭教授と三菱商事がマレーシアで取り組んでいる熱帯林の再生実験が順調に進んでおり、七月には関係者を集めて現地で植樹祭を開くまでにこぎ着けた。成功すれば、熱帯林再生のモデルになると期待されている。



宮脇 昭教授

野外の苗木 スクスクと

再生実験はマレーシア国立農業大学の協力のもとに、昨年五月から始まった。サラワク州(ボルネオ島の熱帯林の伐採跡地に設置された同大ピツル分校で、八百粒の敷地のうち五十粒を実験に使う。

地で再生できる確信を持つた」と小沢正明、三菱商事地球環境室次長。 七月十五日に予定している植樹祭には、地元の小中学校や高校の生徒たちを招待して、植樹をしよう。

現地に生えているランやどろろバガ科の樹木による再生を目指し、実験は近くの熱帯林の中で同科の種子集めからスタート。これを温室内で発芽させた苗木は、すでに三十万本にもなっている。昨年十月、試験的に野外に植えた苗木四十六本のうち、磨みつけられて枯れた一本を除き、全部が今春までに順調に生長した。「これでこの土

●又も出ました宮脇ほん！ あんにょんのことば次号にやらしてもらいまっけ！ 三菱商事は「どえらい金」が「かかるともて「かなん」とか「言」てまっせー！ どっちにしても「みんな注回」してまっせー。

マレーシア 95年目標に6割輸出削減

サラワク500万、サバ200万 m³

持続森林経営めざす

リム第一次産業相

リム・ケン・ヤツマレーシア第一次産業相は十六日、森林資源国であるマレーシアが今後一層持続可能な森林経営を進める一方で、林産物輸出の付加価値化と産業育成に努めることを再表明するとともに、東マレーシア二州の丸太輸出量は九五年を目標にそれぞれサバ州二百立方尺、サラワク州五百立方尺まで削減することを明らかにした。同年以降の輸出規模については言明を避け、「州内木材産業の育成動向による」とし、州内消費状況を見ながら輸出政策を進めていく考えを示し、「少なくとも二〇〇〇年までにいずれの州においても原木禁輸措置がとられることはない」と言明した。



リム第一次産業相

原木輸出推移('86~'90)

(注) ()内は日本向け、1,000m³

	サバ州	サラワク州
86	8,708(6,310)	10,239(5,123)
87	10,135(7,107)	12,648(5,941)
88	8,248(5,649)	12,293(5,569)
89	5,410(3,873)	14,960(6,831)
90	4,125(2,963)	15,898(7,124)

サバ、サラワク州統計局

▶木材新聞 '91年5月18日 (ニュースが少しおそい、日付が並んでいる)

●この他、リム産産相は、マレーシアは伐採地域や許可量を厳格に規制し35~50年サイクルで伐採が恒久的な可能な森林を作っていくのがマレーシアが荒廃した国土にはならないとも語っている。

▼日経 5/15

熱帯林原木

段階的に輸入削減

大手9商社、95年に20%

三菱商事、伊藤忠と大手9商社9社は環境保護機運の高まりに反対、非難を集めている熱帯林の原木輸入を段階的に減らす。林野庁の与リンクに応じて作成した中期計画によると、九大商社各社の年間輸入量は九五年には九〇年比二〇%減の約三百五十立方尺となる。熱帯林伐採の大幅削減を求める環境保護団体の主張とは依然、隔たりがあるものの、商社各社は代替材の活用などで原木輸入量を徐々に削減していく考えだ。

●リム第一次産業相の発言をうけて出したものであり、各商社はその対策に苦慮している。
この動きにもっとはずみをつけ世論を盛り上げよう。

サラワク女性初来日

【6月1日→6月9日 全国12ヶ所縦断キャンペーン】

●意外な事に、サラワク女性が来日した事は、今まで無いとのこと。森には女も男も同じように住んでるのに、女の声を聞きもらずのは勿体ない、てな訳でこの6月、4名の女性が来阪します。

☆メアリー・アシユンタさん
[Mary Assunta]

マレー人。ベナン消費者協会の方。

☆ルーシー・バウン・ウロイさん
[Lucy Boun Uloi]

カヤン族。ウマバワン村から来られます。

☆ムジャン・ワンさん
[Mujan Wan]

カヤン族。同じくウマバワン村から来られます。

女性プロジェクト(一体どういうプロジェクトなんだろう)の責任者です。

☆ナンシー・ブランさん
[Nancy Bulan Ngerong]

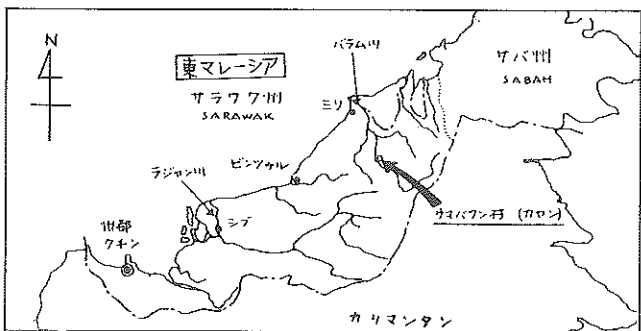
ケニャ族。パラム川のLong Moh村から来られます。

地球の友で働いているそうです。



民芸品
「ノン」
農作業用のカザ

6月5日昼間には大阪で話されるとのこと (PMよりコスモ証券ホールにて、主催・CASA)。ウータンでも6日、メアリーさんとルーシーさんの二人をお迎えする会を開きます(残念ですがムジャンさんとナンシーさんは次の訪問地へ)。熱帯林とその森に住む人々に関心を寄せる者が、日本にたくさん居る事を伝えたい!です。今号スケジュール確認の上、京都へお越し下さい。(篠)



ハボンゴ(屋根材)をつくるカヤン族のガアラン。(ウマバワン村)

自治体との話しあい(第3回報告)

執業林不使用への道のりは遠い。

4月19日

井下祥子

PART 1

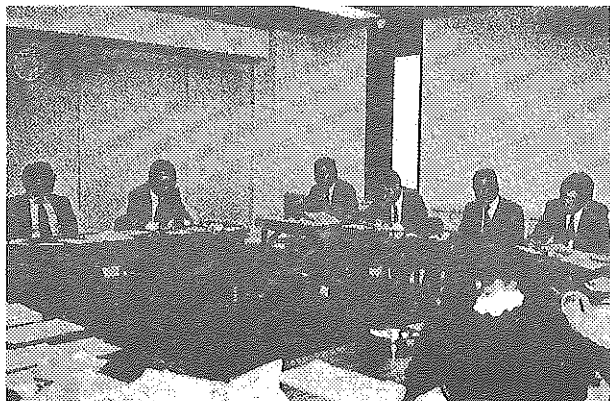
A.M. 大阪府「ちょっぴり♡😊」

以前から、発注の8部局(建築、土木、企業、水道、農林、警察本部、府大、教育委員会)の集まりをもって会議をしている。その中で削減について話し合いを始めた。すでに2度話し合っている。

建設省の「建築技術開発会議」(外部の専門家も入れたワーキンググループ)が今年度いっばいをメドに方針を出すという情報をつかんでいる。

「削減」の方向をめざしたいが、府としては国の指針をまっぴらして、それと並行してやりたい。大阪府だけが高価な代替品を使うというのは難しい。国の補助金の監査が通らない。…とか、特定の業者をヒイキできない役所のきまりとか…。

たとえば、針葉樹を使ったコンパネがどれほど市場性を獲得する(つまり普通



▲ 4/19 大阪府との話しあい(6名出席: 建築監理課、管轄室、企業局、空海推進課、土木監理課の発注部局が集まる)

に買える)かが問題だ。

建築業界では竹中工務店社長が地球環境専門部会の長になり、削減を考えている。又、日本合板工業組合連合会も使用削減を検討中とのことだ。

※「卒先して」というよりは「状況まち」の感が強い話でしたが、ウータンより「東京都の取組はかなり進んでいる。連絡をとって検討してほしい。」と申し入れ快諾してもらえました。

PART 2

P.M. 大阪市「げっそり♫」

※ 質問状をあらかじめ府と市に送付していた。

西岡(ウータン)「では、質問1についてお答えを。」

市側「はあ? 今日ばコンパネについてお話を伺うと聞いてたんですけど?」

総務(窓口になさね)「あー、質問状は昨日遅く届きましたので、まだ(各部局に)回してないんです。

ウータン一回「アセーん……………」

このあと、大面井護士の説明の回でも、寝てる人あり。ハハのんきだネ! ……という調子でした。

「環境問題はウチの課にいわれても」、「市が発注するのは中小のゼネコン(コンパネを扱う業者)が多いので、針葉樹を使ったコンパネで30%価格アップするとシンドイ。」と、とにかく「難しい、無理。」という話に終止した。

※ あひたも話を固きに采ませんか? 次回からの話し

いに参加できる人あればどんどん加わって下さいネ!

初めて署名集め FOR ME

&あなたに出来ること

浅野かおり

「こんなに面白くていいの？」これ、4月29日服部緑地熱帯木材不使用署名DAYの勝手な感想。私、募金はやったこと有るけど署名は初めて。最初やり始めて、一人も取れなくてあせる。「出来るやろか？」

でも、目の悪いおばあさんを初めとして、してくれる人はいるもんです。結構パワー要るけど、うまくいく時はうまくいく。もし、署名された方が、話しかけてきたら、聞く。話した方は満足、こちらも服部緑地に来られてる方の関心がわかって面白い。

呼びかけは「マイク」も使う。カラオケと同じ(?)。でも、歌詞(原稿)は無し。人のを聞いて歌詞を研究。効果的な言い方や言葉は言ってるうちに出て来る。説明しなきゃと思うと自分で良く考えるしね。

署名って 簡単で

楽しくて、

人とのふれあいがあった

権利を守りたい先住民の役に立てて

自分たちの環境や生活を守ることにつながる

この内の3つ、「納得」と思ってもらえれば署名したくなる人がたくさんいるはず、としゃべり続けました。

サラワクのもので遊んで、ちょっとつついたたら多くの署名を集めた子供、楽器や踊りを興味深く見る子供、そして8名の当日スタッフと楽しんでるうちに、400以上の

署名が集まりました。(一人じゃこれだけできひん) その前日は京都署名DAYだったそうです。銀閣寺前で集まりにくく、京阪三条駅前の方が良かったので、人が止まる場所を考えるべきなんです。(4名参加) 現在ウータンでは多くの方の力によって600以上の署名が集まっています。9月までの機会を逃さず、ちょっとやってみては？一人で作る方は一人で、何人かで出来たらもっと楽しい。当面続くハガキキャンペーンの方も一緒に盛り上げていきましょうね。



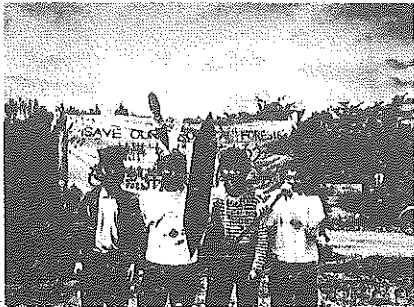
▲ 大面井護士も応援に...



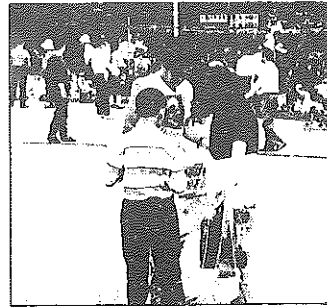
▲ 京都

署名只今600名以上!!

▼ 署名も手伝ってくれた中学生4人



▼ 大阪



みなさん どうもありがとうございました!

プキメラ村から水俣へ

奥村 知亜子

水俣の地に初めて立つ。なだらから丘には若葉が映え、人々はのどかに畑仕事に精をだしている。両岸に広がる遙かな青い海。三五年の人々の苦しみがより水俣を美しく見せるのだろうか。

三菱化成の公害輸出を問う全国キャンペーンは、プキメラ住民を招いて、東京の三菱化成への申入れを皮切りにして大阪、岡山、北九州、福岡と集会を持った。そして、公害の原点とも言われる水俣でも交流の場が持たれた。

昨年の八月、イポ市のプキメラ村を訪れた時、現地を案内して事態を知らせようと迎えてくれたヒュー氏と再会できた私の喜びは大きかった。ゴムやココナツなどの広大なプランテーションの中をマレー鉄道に揺られて降りたプキメラの村も又、緑豊かな美しい村だった。人々は昔から靴作りを業にして幾世代も平和に暮らして来たのに……。

A R E (アジア・レア・アース) 社がやって来てから、半減期一四〇億年ものトリウムによる核汚染のために、今や死の恐怖の中で暮らしている。次々と人々が村を出て、共同体までも壊されようとしているなんて……。

池や空き地に棄てられた廃棄物を取り除いたように見せかけて、塀のある集積場を作ったり、山の奥深くへ捨てに行ったりしているが、全く解決策にはならない。水俣の水

銀汚染が、山を削り、海を埋め立てることで終わらないばかりか、また新たな破壊を生み出しているかのようだ。プキメラ村では、今年に入って急性白血病・癌が発見され、二月には幼児が敗血症で死亡したという。

ヒューさん達プキメラ村の人々は、A R E社の操業停止と工場の撤退を求めている。「日本でやってはいけないことを海外でもやらせない。」という当たり前のことが出来るかどうか私達に問われている。進出企業の公害規制法を求めるなど、このような海外での乱開発を止めるために、多くの人々と協力していくつもりだが、私達日本人々々々暮らしを変えていく必要があるのでは……。

授業で高校生に大金を持ったらどうするかと聞くと「車マイホーム、土地、株、ゴルフ、海外でのリゾート、ブランド漁り、グルメ」といったワン・パターンの答え。今の大人社会の反映だと思う。次の世代に豊かな自然やのびのびした心を残すには、どうしたものだろうか。



「三菱化成の公害輸出に反対しよう」と大阪集会で

熱帯林のアポ山を脅かす

地熱発電所計画

◆ 熱帯雨林保護法律家リーグ・弁護士

西田 研志

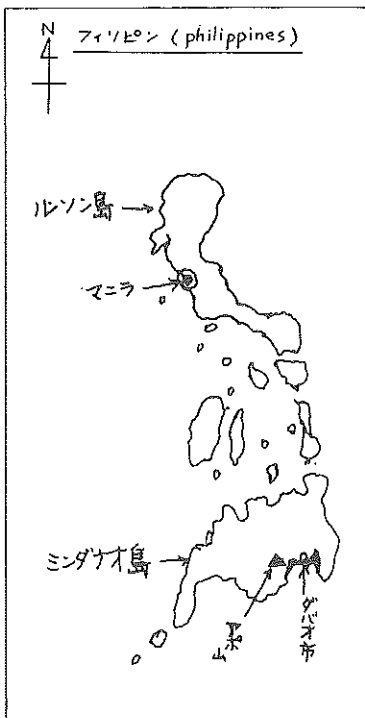
ミンダナオ島の南部中央にあるフィリピン最高峰のアポ山。熱帯林にかこまれ、ミンダナオの真珠と呼ばれています。低地は熱帯林特有の樹がそびえ、高度を上げるにしたがってコケ類、シダ類、ラン科などの多くの固有の植物に覆われ、まさに全山が緑の饗宴を繰り広げています。ここはフィリピン鷹、フィリピンモンキーなども住む動物たちの楽園でもあるのです。フィリピン最後の熱帯林であるアポ山は、一九三六年に大統領令によって約七万ヘクタールの山々が国立公園に指定されています。そして現在、「保護地域及び野生動物保護局」の管理下にあるのです。

この南の楽園は、太古から先住民の暮らしを育んできました。ミンダナオの先住民はルマッドと呼ばれ、マノボ(二五万人)、バゴボ(八万人)、ウボ(五千人)、アタ族などの人々が住んでいます。彼等にとってこのアポ山は神の宿る大地なのです。アポの山は、先住民と天地の創造主であり、守護神であり、肉体が減んで回帰す

る場所と、人々から崇められています。この地で先住民は昔から現在まで焼畑耕作と採取、狩猟生活を行い、聖なる森を守ってきました。

しかし、この山にも開発の手が伸びてきて、現在国立公園の森の半分が破壊されてきています。一九八三年に大きな山火事にみまわれて森林破壊に拍車をかけましたが、その最大の原因は低地に来た移住民による違法伐採や環境を無視した非伝統的な焼畑です。この三月に訪れましたが、山全体がずたずたに引き裂かれてきているという印象を受けました。

森林破壊に追いつけかけをかけるように持ち上がったのが、フィリピン石油公社(PNOC)による国立公園内での地熱発電計画です。公園の真ん中四五〇ヘクタールを対象に井戸を四〇〜五〇本掘って、地熱エネルギーを熱水で汲みあげ、その放散エネルギーで発電するというもの。PNOCは政府に対し、一九八三年からアポ山の発電計



画建設の許可を何度も求めていましたが、環境に対する悪影響が大きいということで、野生動物保護局や大統領令で国立公園内での開発行為は拒絶されていました。だが八七年四月、PNOCは環境庁から実験井戸の開掘及び調査活動に関する許可を受けたのです。PNOCはこれを錦の御旗にして、いきなりキダパン市からアポの山肌には八・五kmの道路を建設しました。道路に沿って広範囲にわたる土壌決壊が起きました。さらに不法占拠者による小屋も建てられ、PNOCは実験井戸の開削を開始して三ヶ月で一、二号井を掘りあげたのです。

道路建設で森を大きく壊したのですが、さらに井戸の開削でさまざまな環境に悪影響がはじめています。例えば、廃水が川を汚染して、周辺に住む先住民の子どもや老人に汚染水が原因と見られる皮膚病、内臓肥大による死亡が報告されています。《地球の友》などの環境調査によると「掘削からの熱水は重金属を含む毒性物質で、下流域の生活水を汚染し、農業への損害を与えます。また、熱水は硫化水素を大気中に撒いて酸性雨となつて、森を枯死させる。」事実、廃水はヒ素が政府許可基準の二百倍をこえ、リチウムも基準をはるかに超えています。全体計画が実施されて四〇〇五〇本も井戸が掘られたらアポ山全体にわたって壊滅的な被害が出ることは明らかです。原生林も動物もすべて死滅する恐れがあります。アポは先住民の心ふるさとです。そして生活基盤そのものです。政府は、電源開発のためと言いますが、電

気製品に無縁な先住民にとってはこの計画が全く無価値です。恩恵を受けるのは、ダバオ市の産業資本と外国資本がほとんどです。

八九年四月、この地熱発電工事に対して先住民九部族が集まり、反対同盟が結成されて、実験井戸に向けて抗議の行進が千五〇〇人で行われました。その八月に長老達がマニラを訪れ、関係者や国会議員に計画中止を申入れ、テレビ等でアピールしました。それに呼応して環境保護団体、キリスト教団体、弁護士グループ、一五三の先住民組織でもこの運動に支援をはじめています。

アポ地熱発電計画は、カラバルソン計画と共にフィリピンでは最大の環境問題となっています。国際的にも反対運動が始まって、計画の融資先である世界銀行やアジア開発銀行に批判が高まり、八九年十月二三日、世界銀行はついに融資を見送ることを決めました。またアジア開発銀行も一定の基準が満たされない限り融資を見合わず決定を行いました。

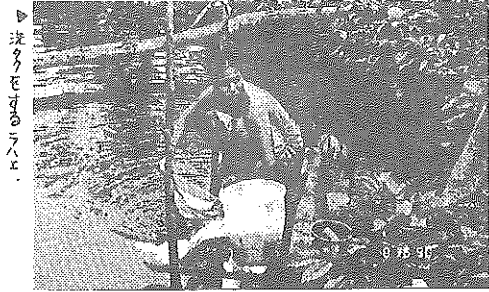
しかしPNOCはあきらめずに関係者を懐柔したり、反対運動にさまざまな画策をしています。世界銀行などの融資が不可能になったので、今度は日本の輸出入銀行に對して融資の申入れをしているとの事です。日本はこの計画に先立ち、OECFが一六次借款の対象としていた経過もあり、フィリピン政府は輸出入銀行に融資申入れをしています。いずれにせよ樂觀が出来ません。今こそ支援ネットワークが必要となっています。

マレーシア サラワク発 **ザヨシナジ!** ●1990.8.15~25 熱帯林伐採と向う 先住民カマンの村 ウマバワンを訪ねて

第4回・最終回です。

文とイラスト 永田健一 (ウータン)

8/23 (木) 「クルアン最後の日」 (前号からのつづき)

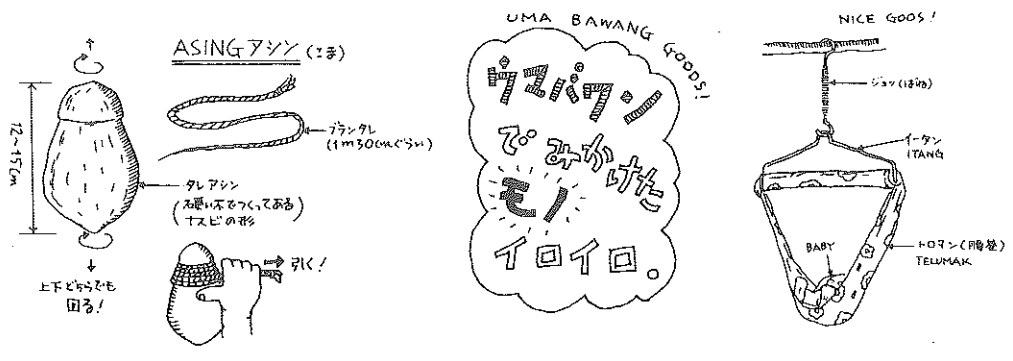


炎天下で、斜面が大羊の作業ほしてもキツイ。下から上へ、上から下へ往復すると一休み。これのくり返しである。みんなスバツやジコでひと息入れている。この時にスキをねらって相手の顔にスミをつけるのである。私もムジャンにやられる。2時をすぎてもおむかえが来ない。とうとう伐採現場へはいけなくなる。アープ。

6人で1ha弱の畑でのヌガンは6時までたっぷりかかってしまう。「ラエタ、ラエタ!」伐採現場用にとってあいたビデオで今日の作業をとってあげればよかったと反省、しりしもうあとの祭。汗でダクダクになった私はムジャンの家の近くの川へ水浴びに行く。川であったリッエの母らんにジーボンや服を洗ってもらった。もうあたりはまっ暗になっていた。水浴びを済ましてオボン(14)の家のボラをゴラそうになり、ジコカマンの巨大なヤツもくんだ。最後にオボンの母のウバン・ガウ(32)からラクッ LAKU(ヒスをつくらうを諭)をもらう!

「ムオッ マヨッ コアツッ!」(ありかとう)

長居をしてしまったので大急ぎで家に帰るとみんな晩飯が終えていた。スミマセン。農場で最後のミーティング、ラエンといっしょに向かう。ジョク宅にはすでに多勢の村人たちが集まっていてとてもぎやかであった。村の人たちがかわる変わるメッセージを私たちに言ってくれた。ムリンを始めた長毛に、年の人たちに、マイモン、リッエなどと若者から。印象的だったのは、この向うと私についていてくれたラエン(17)の言葉だった。彼は、「あなたたちといてとても楽しかった。私たちが帰ったあと、ぼくはもしあなたたちの足あとを見つけたら型をとって木の箱に入れ大切にしよう。」といてみんなの拍手をあびた。私もあなたたちを忘れないでしよう。いつまでも いい笑顔でいて下さい! 明日はいよいよ、ウマバワン村へ向かいます。



8/24 (金)

「お金はつくることができる。しかし、
土地はつくることができない。」

——ブロッカーの時、カワバ正 横断幕の言葉より——

朝、ラエンは私に「7:30に家を出る」と言ってきた。

午前中、ひと仕事あると思っていた私はあやうく荷物をもとの、ラエンと家を出た。

途中、潘口さんと会い、彼もいっしょに行くことになる。

他のメンバーをレトリ目に「お先に!」とクルマを

去る。バラム川に出るとラエンはボートをと

りに姿を消す。その間、バラム川で水浴びもろろん服のまま(すっかりなれてしまったようだ)

村に着いたら例のごとく雑貨店へビールを飲みに行き、ともかくの一杯!

着替えをし、ハダシで村の中を散歩。ウマバワンスクールへ向かう。授業はまだ終わっていません。子供たちが出て来るのを待つことにする。

窓から人なつていぬをのどかせる子供がいる。小学校は12:00で終了する。

ここウマバワン村では、6年間、この小学校に通い、ロングテマのシニアスクールで5年、そのあとはミリの大学というコースになるが、全てがこの限りではなく、農場の方がいいと学校に行かない子供たちも多い。下校する子供にカメラを向けるとやはり女の子は「キャー」といって逃げるように走っていってしまう。

サイモン(23)の家で昼食をどうぞしてもらっていると雑貨店の主人がやってきて「コマン!」うちでも食べようといわぬがきいに来てくれた。その気持がうれしく、昼食のハシゴ、腹はパンク寸前!!

村の人の気持を食べていると思えばうれしくもあります。

さうこうしてるうちにクルマからは三々五々私たちのメンバーや村人が帰ってきています。

日中はやはり暑く、バラム川へ水浴びに、子供たちと水かけ、泥なげ、追いかけっこ、パンツの中は砂だらけ! 足は流水で傷だらけ、にまりまへん!!

夕方、サラワクに入って初めてのスクール、雨(ウーサン・USAN)です。空にはわりにかきこもり、風(バーフ・BAHVI)が出てきて、レパレラッと降ってきたかと思うと「サ——ッ」ときました。

雨水をたのむドラム管もすぐに満杯、クルマから帰ってくる村人もびしゃびしゃです。

このあとスクールは1時間あまり降りつづき、うそのようにピタッとやんでしまいます。

ラエンが「家にこい。」というので行くとボラが出た。話をしていると、あつという間に子供でいっぱいになり、市東さん、笠原さんをまじえて、歌の交流会となる。

子供たちが覗く姿とその声には感動しっぱなしだった。

夜7:00 ジョクさんと村の人たちは私たちのために豚を1匹づつぶち割らせてくれました。

▼ @ ウーサン・ジャウ (68)



◎ ガウ・ジャウ (74) ▼



▲ 覗きまかしてくる子供たち

ジョクさんの食堂はもう「コマン!コマン!」の音が飛びぬい、パニック状態。

はては女の人や私たちが1人1人にスプーンをもって食べさせてくれるまつ。

村の人たちもとなりの部屋を集まって食事をしている。少しでも目が合えば「ドゥイ、レッペ!」「コマンコマン!」と

言ってくる。



(WOMAN)



4カマ族の伝統的分踊り

(MUSIC)

いよいよパーティのはじまりだ!

村一番のひょうさんばあちゃんガトップで踊り出す。順番は決まっていなく踊ったものが次の番を指名していくのだ。踊り終わるとボラがさし出される。

87年のブロッケード10/29に逮捕された42名のうち現在村にいる人たちを私たちに紹介してくれ、私たちは彼らと1人ずつタビ(帽子)をして回った。そのメンバーはほとんどが村

の働手であったことはいまでもない。そのあと、代表してムリンルガマルティの刑4所での体験を聞かせてくれた。

(尚、通訳はジョウガガカロン語→英語に、禮田さんがそれを日本語にして私たちに聞かしてくるシステム)

「87.10.29、ウマバワンの近くの集積場の道路を封鎖した。すぐ警官がやってきて私たちに42名は逮捕された。

私たちが土地を守るためにやったのであって、木材会社の操業の停止を目的にしたのではありません。しかし投獄されました。刑4所で与えられたのはパンツ1枚、手の平一杯の米、くさったタマゴ、味もなにもない野菜だけでした。42名同じ部屋に入れられ、毛布もなく、コンクリートの床にねがされました。トイレも同じ部屋

にあり汚物の臭いで寝れなかったのです。 私たちは2週間後に釈放されました。

88.9.24 抗議裁判の公判があったが 全て却下されました。しかし私は信じています。

私には勝つまであきらめません。皆さんも応援して下さい。」

他 村人の多くがメッセージをよこしてくれました。

私たちも1人1人、村の人たちにおれを言っただけ、英語が出来たらとこれほど思ったことばかりだった。これから先、私たちの行進が広げられていく番である。

パーティは二部?に移り、子供たちの踊りやウーマンズグループによる「アオン族」の惨状を訴えた風刺パフォーマンス(ナベをかぶり、ボロぐつ、ボロの衣服をまとったもの)などが次々と催されていく。村人や私たちにボラや中国製のウォッカ?の酒がふるまわれる。

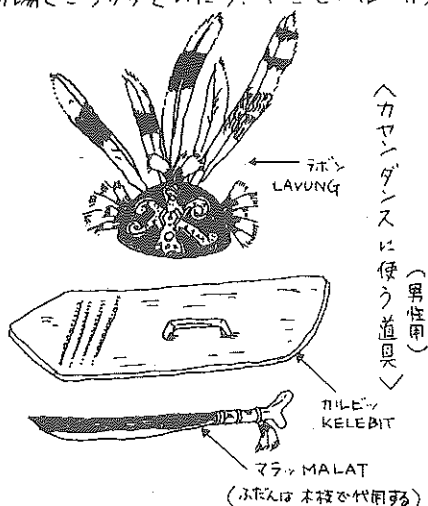
すでに夜中の12時を回っている。パーティはまだまだ続く……。 さきほどのパフォーマンスで使われたナベの底のススをつか



4子供たち

てまにもれ 全員入りかたれてのまっ黒台敷もあり、汗と酒とススでもう大変!! AM3:30 起きている人々と少なくなるが村の人はまだまだ元気、私たちの中き起きていたのは4人、その4人に村の長老たちが、なんとも味ゆいのある即興の語りをやってくれた。

一番ラエタのは禮田さんだ。私たちと村人との通訳をあけてくれたのですから……。
 かくろさまでした。とうとう私もダウン！ その場でころがっていたら、やさしいルーナス
 が2下に案内してくれました。



8/25 (土) ⇒ 8/27 (日) 「帰路……」

朝6時を起す。頭はげんげん、体は汗と通そくさく、顔はススでまっ黒。私には顔を見合
 せ大笑い。大急ぎで荷物をまとめ岸辺へ向かう。

起きてきてくれた村人たちは15人ほど、まだみんな眠りについているようだ。

岸辺で村人と最後の別れ、オマン（瀧口さんの母ちゃん）は「もってけ！」とバラム川の石を私のバ
 ッグに入れた。

7時、船はウマバワン村を離れる。大声で別れを告げ、岸が見えなくなるまで手を振っていた。
 「モネッ、マヨッ、コアッ！」 本当にありがとう。

私たちの忘れていた日々を思い出させてくれて——。

マルディ11:20着、すぐにマレーシア地球の友(SAM)の事務局へ（サラワクの先住民の困いをささえ、
 その動きを世界に伝えている）、あいにくリーダーのハリソン・ガウは外出中であえなかった。

本日はマルディにて一泊する。

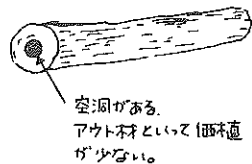
翌朝8/26 朝9:30 飛行機できたマルディまでの行きを、帰りは、より近くのクアラ・バラムまでバラ
 ム川を下ることになる。バラム流域の熱帯材積出港を見るためである。2時間の行程。
 クアラバラムに近くなると川の両側にうす高く積まれた材が何千、何万本とある。

材のヒゲ空洞になっているアウト材が多く、これらは出荷される
 のだろうか？ 一般的に良質は全て日本が買い、そのあと質が
 落ちるに従って韓国、台湾、次に中国、インドが買うというしくみ
 らしい。クアラバラム港には多くの製材所があったが、製材
 されている材の割合はがなり少ないように思うけられた。

ミソ → 半島マレーシア・クアラランポール 夕方着（一泊）

翌朝7 7クアラランポール → 成田 6:00PMで今回の旅は終了。

帰ってきた日本は「相変らずの日本」でありました……。



空洞がある。
 アウト材という価値
 が少ない。

(190.9.14 記)

後記。長いレポートでかなりのページを4回に渡ってさせていただきました。どうもありがとうございます！ (N)

* このレポート1冊にならなくても結構。希望の方はウタンまで……。

ウータンに届いたお便り

THANK YOU

■ 少しずつ参加していききたい。

えーっと、初めましてです。 あたしは、森と生活を考える会の会員に入っています。馬場和美です。

まだ中学生とゆう、はんぞをもつてたり、興味も好奇心も飛びに飛びまくっていたりするので、「ウータン」を読むことが熱帯雨林、そこの原住民さんのこと、知識をいれることが今だに困難（つまりあたしの場合、色んな知識をつめこもうとしてベニクになつたり）してますが、消極的ながらも少しずつ参加していきたいと思っています。

あたし、いつも思うんです。熱帯雨林のことでも先住民のことでも、あしたくさんの地球的規模の環境破壊とか、小さな小さな命の破壊、死においこんだりしている人間やあたしがいつも悲しくむなしく見えます。

これからもがんばって下さい。 あたしも少しずつたくさんこのことをみていきたいと思っています。

（大阪府摂津市・馬場和美）

■ 「川柳」

心技体 見事な奴隷 日本人
人便う 知恵だけ一流 経営者
人類の 地球独占 ゆるされず

一サラワクへ嫁入りされてまでのがんばり、感心しました。

日本人（人間）としての最大の支援になるでしょう。

（JAPANの中韓系さんのサラワク入りのビデオを見られた感想です）

現地の人々に木彫のペンダント等を彫ってもらって、それを募金してくれた人に渡すなどしたらどうでしょうが。
ウータン募金（基金）オランウータンのマークを……。

（大阪府河内長野市・北阪英一）

■ いつも情報いただくだけですみません。今後とも、がんばって下さい。私は、こちらでキエルノブイリ救援のバザー等細々とやっております。落ち込みそうになる時もあるけど、しつこくやっていこうと思います。

（愛媛 新居浜市・伊藤初美）

■ ウータン 19号も興味深く読みました。毎号内容豊富で感心します。但し、19号の10P下段（榎田さんのレポート）賄賂云々は「大胆な」記述で、エエンカイナ？と思いました。

（京都府田辺町・馬谷憲親）

■ お働きを心熱くしつつ思いますが私は休養を命じられていますので……。

（大阪吹田市・松井義子）

■ お元気ですか?! 先日はお忙しいところコンサートにかかけつけて下さってありがとうございます。又、あちこちでリクエストがあるのでもコンサートも出来るかも知れません。その時は会報でも持ってPRもできると想われます。それではみなさんどうをお元気で!

（京都市・田中真澄）

※ 田中さんは昨年サラワク入りされ帰国後、京都でキエルノブイリコンサートを開かれた。

NETWORKS ②

JAPAN ENVIRONMENTAL EXCHANGE

JEE

日本環境保護国際交流会

●「JEE」は京都を中心に活動する非営利、非政治団体で、1987年に環境問題に占める日本の影響の大きさを考えにアメリカ人に創設されました。取り上げる問題は熱帯雨林の破壊をはじめ、リサイクル問題、地球にやさしい生き方を実践する方法など様々です。メンバーの半分を占める外国人メンバーの発想と行動力、日本人メンバーによる運営のフォローを両輪に、「地球のため」「世界的規模で考え、足元から行動する」を言う目並がつ究極の目的を追求しています。

具体的な活動としては、教育研究会とリサイクル研究会が月変りで行なう勉強会（広く一般の人に環境問題を知らせる場として）や、「毎日曜日のグリーンイン・ブリンシユ」（ネイティブによる英会話クラスの形で、環境問題を話合）などの定例活動の他、アースデイ、熱帯雨林マラソンなどのイベント、海外の研究、調査を進めています。過去にはステイブ・バン・メーターの「地球教育」ワークショップ、アーン・ネスの「ディポエコロジー」の講演を行ないました。メンバーの国籍が様々であり、教える立場の職業にある人が多いという利点を活かして、世界中の事実を集め、多くの人々に知らせ、行動を呼びかけることに力を発揮できると思いますが、それぞれの問題で、ウータンのような専門的グループと協力していくことは欠かせません。これからも大いにお互いを利用しあい、突き

INFORMATION

【物・品・案・内】

※くわしくはウータンまで
問い合わせ下さい。



ビデオ

●「熱帯林が危ない」(35分・サラワク・アマゾン・スリン他) ウータンの企画が各地を回って撮影編集したものです。

●「先住民カマン・ウマバワン村の暮らし」(56分・音楽入り) 90・8・15と24の記録です。



スライド

●「熱帯林に関するTVニュースブックアップ」(60分) 「ウマバワン村の生活縮」(100枚・説明書あり)



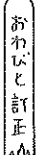
読書資料

●「サラワクの熱帯林があるうちに」 400円
自治体キャンペーンガイドブックへJATAN発行



Tシャツ

●「たみちちんと熱帯林」神奈川県国際交流協会発行
「SAVE OUR TROPICAL FORESTS」
多色刷(1サイズのみ) 2000円



お呼びと訂正

●19号 会員の通信欄での「毎日新聞記者太田 大栄さんの毎日新聞記者はまちがっていました。ドモモスマセン」

な運動に盛り上げて行きます。ウータンメンバーの方も、JEE活動にどんどん参加してください。
(文責 今井淳子)

【JEEへの連絡先】

〒604 / 京都市中京区寺町上る御池通り

富田屋ビル4F

TEL/FAX (075) 252-0737



JEE
がんばるよ!

JUNE

6.5 水

『国連環境開発に向けて』主催
アジア市民の集い C.A.S.A.
TEL: 06-619443
1-3745

◎サラワク女性アムール他
時 0:50 PM ~ 4:30 PM 参 500円
場 コスモ証券ホール(地下鉄環状線北浜下車)

6.6 木

『サラワク・森の女たちの証言』
時 6:30 PM ~ 9:00 PM 参 700円
場 京都教育文化センター(京阪丸太町駅下車)
TEL: (075) 771-4221 北へ3分

『井催: J.E.E.』(本文8P参照して下さい)

6.8 土

『インドネシアの熱帯林』猪俣栄一 主
時 3:00 PM ~ 5:00 PM 参 700円
場 神戸YMCA国際文化センター(三宮駅)
TEL: (078) 241-8801 から北へ8分

『主催: 神戸YMCA国際文化センター』

6.23 日

『ウータン総会』(本文3P参照)
特別報告『熱帯林再生は可能か?』
◎大西裕子弁護士(三菱ダイヤモンドの現状)

JULY

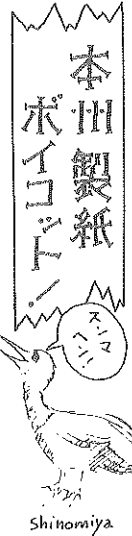
7.13 土

『南港木材団地見学会』
時 10:00 AM ~ ニコトラム(南港口駅)集合
場 貯木場↓合板工場・製材工場(予定)

時 1:30 ~ 4:30 参 700円
場 大阪市中央青年センター(JR森下駅下車)
面へ5分 06-943-5021

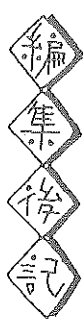


反省。反省。反省。



前号より再生紙に切り変えたばかりの「ウータン」ですが、使用紙である「やまゆり」の本州製紙がパプアニューギニアでえげつないことをやっているという情報が入って来ました。紙のメーカーの1つである本州製紙は現地に子会社であるJANT社をおき17年前から熱帯林の伐採を続けています。現在進められている開発計画「JANTプロジェクト」により「ゴゴルナル」地方では住民の生活がびびりかされていきます。(飲み水汚染・マラリア増加・洪水のおそれなど)この5月16日は現地で大規模なデモンストレーションや道路封鎖が行われ、又住民代表が本州製紙に話し合いを求め来日したので、再生紙70%ということでも「やまゆり」を使用した訳ですが、これらの認識の甘さを深く反省したいと思えます。今号はすでに発注済の為やまゆりを使用することをお許し下さい。尚、次号からは使用紙を十分検討した上で決定します。(編集:永田)

HUTAN



●いやあ、やっぱり編集作業は何度やってもしんどいぞわ。ギリギリにならんと手をつけない性格で出稿前は毎夜の深夜作業になっています。そんなしんどさもみなさんの声はげみになってエネルギーが又たまっていくのです。応援を……。①

●東京の全国会議は予想以上の盛会でした。3年前、ウータンができた頃と比べると熱帯林を守ろうという動きが全国的に広がって来たなあ実感しました。
あい変わらずドタバタやっていますが、私たちががんばらないとネ。②

●ウータン定例会議は毎月ホコホコ火曜日7:00PMより行なっています。尚、5日より他の火曜日もSTAFFがいまますので気軽に来てください。(運営事務局は地下鉄谷町線中崎町下車)

▶ 弁当持参、金中台流可能、連絡簿は1村まで、06-792-1523まで。